



製紙会社社長。宇摩郡三島村(現四国中央市)出身。幼名高助。製紙原料商から身を興し、地場産業の和紙工業を経て、洋紙生産を始めた。パルプから紙までの一貫製紙工場をつくり、愛媛における製紙産業の発展の基礎を築き、商工業の近代化、経営の安定に努めた。また、銅山川分水における柳瀬ダム、新宮ダムの実現にあたってもその功績は大きく地域開発に寄与した。

略歴

- 明治42(1909)年11月7日 宇摩郡三島村(現四国中央市)に生まれる。
- 昭和3(1928)年 三島で製紙原料商開始。
- 昭和15(1940)年 丸菱製紙所社長に就任し、製紙業へ参入。
- 昭和16(1941)年 四国紙業株式会社を建て、大王製紙の母体となる製紙工場づくりに着手。
- 昭和18(1943)年 大王製紙株式会社を設立し社長に就任。
- 昭和22(1947)年 宇摩商工会議所会頭に就任。
銅山川疏水への取り組み開始。
- 昭和28(1953)年 柳瀬ダム完成。
- 昭和39(1964)年 大王製紙が倒産の危機に陥り、昭和37年に会社更生法適用の申請をしており、責任を取って社長退陣。
- 昭和40(1965)年 会社更正手続終結。社長復帰。
- 昭和50(1975)年 新宮ダム完成。
- 昭和53(1978)年 日本製紙連合会副会長に就任。
- 昭和62(1987)年 代表取締役会長に就任。
- 平成2(1990)年7月4日 80歳で永眠。

<関連図書>

- 『えひめ 人 その風土』 愛媛放送株式会社 1986年
- 伊予三島市史編纂委員会『伊予三島市史 中巻』 伊予三島市 1987年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- 大王製紙社史編纂委員会『大王製紙50年史』 大王製紙株式会社 1995年

(写真提供: 大王製紙株式会社)